

「広域交流型オンライン学習」2026年1月実施計画

1. 目的

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「デジタル・シティズンシップ・シティ:公共的対話のための学校」の理念に基づいて教室間にデジタル公共圏を構築するとともに、児童の主体的、対話的で深い学びを創造する。

2. 実施内容

- 東広島市と全国の小学校,そして学習対象となる地域・施設がオンラインでつながって,遠隔授業を行う。
- 遠隔授業の全体進行は,大学の担当者(T1)が行う。各教室での指導は,各学級の教科担任等(T2)が行う。
- 遠隔授業では,児童が自分のタブレットから意見表明等で参加できる機会を設ける。加えて,生成AIを活用した遠隔授業の支援システムも活用する。

3. 授業の日時および参加予定校

- 2026年1月21日(水)3時間目:10:25~11:10,4時間目:11:15~12:00
- 東広島市内5・6年生15校25学級(539名)
 - 1ch:東広島市立高屋東小1学級(18名),吉川小1学級(13名),造賀小1学級(13名),平岩小2学級(61名),高美が丘小3学級(73名),豊栄小1学級(9名),河内小1学級(5名),入野小2学級(40名),龍王小5学級(165名),釧路市立清明小2学級(59名),中央小1学級(16名),伊達市立関内小1学級(2名),鹿児島市立前之浜小5・6年生1学級(8名),徳之島町立尾母小5・6年生1学級(3名),亀津小学校2学級(54名)
 - 2ch:御園宇小SSR,西条中SSR,松賀中SSR,高美が丘中SSR,西条FS,School“S”,島われんきゃハウス(徳之島町),あすなろ(安芸高田市)

4. 単元名および目標

- 単元名「新しい日本,平和な日本へ—日本は平和な世界のために何ができるか—」
- オンライン地域学習の単元目標

【知識・技能】	原爆に対する多様な考えを知り,そのような違いが生じる理由について考えることができる。
【思考・判断・表現】	原爆に対する異なる考えを持つ人々に,原爆の恐ろしさと平和の大切さを伝える方法を考えることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】	平和な世界を作っていくためには,異なる考えを持つ人々とも,一緒に平和について考え続けることが大切であることに気づくことができる。

- ・赤色:個人端末の活用場面 ・黄色:個別学級の活動場面 ・緑色:学級間の交流場面 ・青色:中継・動画
- ・★: AI 学習支援アプリを活用した意思表示や遠隔教室の声の収録・分析場面
- ・発表の基本過程: 教師と児童でやりとり→発表者を決める→カメラ前でスタンバイ→同じ答えが出たら戻らせる

○ 本時の目標

- ・1/2時:韓国とアメリカにおいて原爆がどのように語られているかを知り,なぜ日本との違いが生じているかを考えることができる。
- ・2/2時:原爆に対する考えの違いを踏まえて,韓国とアメリカの人々に原爆の恐ろしさと平和の大切さを伝える方法を考えることができる。

5. 授業展開

T1 (金・草原)の動き	予想される児童の反応	T2 (学級担任)の動き	ホスト, 中継先, T3 (補助者)の動き
<p><導入:日本の原爆,世界の原爆></p> <p>1. 国による原爆の認識の違いを知る。</p> <p>(1) 今日,日本,韓国,アメリカからの3人の先生と一緒に平和について勉強するよ。それぞれの先生は平和と聞くと何を思い出すのかな?(5)</p> <p>(2) これまで原爆について学んだことを通してどんなことを感じましたか?(どうしてそう思ったの?) (5) ★</p> <p>(3) 韓国やアメリカで原爆について勉強していることは,日本と同じかな? 金先生とカビール先生と草原先生の対談を聞いてみよう。(2)</p> <p>(4) 韓国やアメリカでは原爆について学んでいることは違うみたい。(3) →みんなの感想を教えて!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国の金先生,日本の草原先生,アメリカのカビール先生と学ぶんだ。 ・人や地域によって平和のイメージが違うかもしれないな。(平和記念公園,折り鶴,ノーモアヒロシマ,ガンディー,エノラ・ゲイ,正義,ピースコープ) ・写真を見て原爆の恐ろしさを感じた。 ・平和の大切さを感じたよ。 ・あまり学んだ記憶がないな。 ・原爆の歴史を伝えることは大事だな。 ・韓国では,原爆の被害についてはあまり学んでいないんだ。 ・アメリカでは,原爆の被害について学んでいるけど,原爆を落とすことが必要だったとも学んでいるんだ。 ・こんなにも学ぶことが違うんだ。 ・日本で学んでいることが,外国の人にも伝わっている(響く)のかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童端末をネット接続させる。 ・ディスプレイの音声を調整する <p>・発表できる児童はカメラの前へ→T1に指名されたら発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における原爆に関する学びのキーワードを板書する(「恐ろしさ」「平和」など) ・韓国とアメリカにおける原爆に関する学びのキーワードを板書する(韓国:「独立のきっかけ」「被害はあまり学んでいない」など)(アメリカ:「原爆の被害」「原爆を落とす必要性」など) ・学習課題を板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶→電源・音声・カメラテストを実施 ・OP 動画の再生(開始 12 分前) <p>・指名された学級をスポットライト</p> <p>・TSUNAGU 起動① →教室の発話をモニター&分析</p> <p>・T1 の指示で, AI の分析結果の共有</p> <p>※進行:草原先生</p> <p>※○×棒を使う</p>

【めあて】 原爆について異なる考えを持っている人々に,どのように原爆の恐ろしさと平和の大切さを伝えれば良いかを考えよう。

<展開1:原爆に対する異なる語り>

2. 日本と世界の教科書を比べる。

(1) 韓国・アメリカの教科書と日本の教科書を読んでみよう。

① 日本・韓国・アメリカの教科書から原爆に関する内容を探そう。(10)

② その内容を読んで、気になることや疑問に思うことについて話し合おう。(5)

(2) 気になったことや疑問に思ったことを韓国の金先生とアメリカのカビール先生にぶつけてみよう。(15)

※ 出なかったらスプレッドシート①を参照して指名する。

-----休憩-----

【韓国の教科書】

- ・原爆の恐ろしさを習わないんだ。
- ・原爆の恐ろしさより、国の独立の方が重要に考えられているからかな。

【アメリカの教科書】

- ・アメリカが原爆を落とすことになった理由が書いてあるよ。
- ・原爆に反対した人もいるんだ。
- ・今の韓国やアメリカの人々は、原爆についてどのように考えているんだろう。

【金先生(韓国)の話】

- ・韓国では原爆によってどのような被害があったかはあまり学ばないんだな。
- ・北朝鮮が核を持つことに備えて韓国も核を持つ必要があると思う人もいる。
- ・日本が戦時中で行った加害に関して語る必要があるという人も多数いる。

【カビール先生(アメリカ)の話】

- ・日本に対してどのように戦ったかという流れの中で原爆を学んでいる。
- ・被害について学ぶが、「アメリカの兵士の犠牲を少なくし戦争を早めに終えるため」と考えているんだな。
- ・最近では、原爆を使ってはいけなかったと考える人が増えているよ。

- ・【資料1】を配布する。
- ・児童に教科書を読ませる。
- ・気になることや疑問をメモしながら読むように指導する。
- ・気になることを発表してもらい、その内容を板書する。

- ・発表できる児童はカメラの前へ→T1に指名されたら発表。
- ・金先生とカビール先生の話聞きながら、板書を補足する。

- ・資料配布を支援する。
- ・スプレッドシートの入力を支援する。

・指名された学級をスポットライト
※ 進行: 草原先生

<展開 2:異質な他者との対話>

3. 日本とは異なる考えをもつ人々への提案を考える。

(1) 伝えた方が良いと思う理由は?
(10)

①学級で話し合ってみよう★

②発表しよう

(2) ブレイクアウトに分かれて、どうすれば原爆の恐ろしさや平和の大切さが伝わるかを考える作戦会議をしよう!
(15)

【ポイント①】韓国やアメリカの小学生に伝える内容を考えよう。

【ポイント②】伝える相手は原爆について異なることを学んでいることに気をつけよう。

・二度と広島と長崎で起きた原爆による被害が起こらないようにするためには伝えた方がいいよ。

・日本にしかできないことじゃないかな。
・戦争がない世界にするためには、過去の事実をきちんと伝えた方がいいよ。

【韓国との対話の例】

・「(日) 平和のためには、二度と原爆が使われないことが大事だと思います」
→「(韓) 日本による植民地支配で私たちが受けた被害をどう考えますか」

→「(日) 私たちが被害だけではなく、加害についても学ぶので、韓国でも原爆の恐ろしさを学んでほしいです」

【アメリカとの対話の例】

・「(日) 平和のためには、二度と原爆が使われないことが大事だと思います」
→「(アメリカ) 私たちの国の兵士の被害を減らすためには、原爆を使うことも必要だったかもしれません」

→「(日) 原爆を使わなくて済む社会を作るために必要なことを一緒に考えていきましょう」

・どンドン児童に発表させる。

・発表できる児童はカメラの前へ→T1に指名されたら発表。

・各班のファシリテーターは、T2が担当する。

・質問や伝えたいこと、困ったことがあれば、全体ルームに戻る。

・ファシリテーターが各論点について意見を聞く際に、発表できる児童はカメラの前へ出させる。

・議論が滞りそうなときは、ファシリテーターが自身の見解を表明することで、議論を活性化させてもよい。

・TSUNAGU 起動②

→教室の発話をモニター&分析

・T1の指示で、AIの分析結果の共有

・指名された学級をスポットライト

・ブレイクアウトを設定する。

A班:高屋東小,中央小

B班:平岩小1,清明小1

C班:平岩小2,亀津小1

D班:高美が丘小1,造賀小

E班:高美が丘小2,龍王小2

F班:高美が丘小3,入野小1

G班:龍王小1,清明小2

H班:龍王小3,入野小2

I班:龍王小4,亀津小2

J班:龍王小5,吉川小

K班:豊栄小,関内小,尾母小

L班:河内小,前之浜小(,Ch2)

・スライドの入力を支援する。

<p>(3) 発表しよう! (10)</p> <p>(4) 日本と韓国, 日本とアメリカの両方の状況を知っている金先生とカビール先生の感想を聞こう。(5)</p> <p><終結: 平和に向けての対話></p> <p>4. 異なる考えを持つ人々との対話と原爆について考える。</p> <p>(1) のん太アンケート① (3)</p> <p>今日の学習を通して学んだこと, 感じたこと, 考え直したことは何かな。</p> <p>(2) 平和な世界を作るために, 何ができるのかな。(2)</p> <p>【まとめ】 平和な世界を作っていくためには, 異なる考えを持つ人々とも, 一緒に平和について考え続けることが大切だね。</p>	<p>【金先生とカビール先生の話】</p> <p>上記の提案例をもとに, 抜けている観点があれば補足してもらう予定。</p>	<p>・T2が, 作成したスライドについて議論を踏まえて発表する。</p> <p>・アドバイスや観点を板書する。</p> <p>・既存の提案を修正する必要があるかどうか, 必要があれば, どこをどのように修正すれば良いかについて話し合う。必要であれば, 板書の内容を補足・修正する。</p> <p>・タブレットの操作を支援する。</p>	<p>・タブレットの操作を支援する。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------

6. 資料 (資料は, 大学から各学校に郵送します)

- 【資料1】 韓国・アメリカの教科書 (A4 横×1, 白黒)

7. 教具 (各学校でご用意ください)

- 日本列島の地図, 世界地図 … もし教室にあれば, 掲示してください。参加校の位置を随時確認するために活用してください。

8. 授業前の準備例

- T2 は, 高校生用の教科書 (授業では使用しない) を読み, ブレイクアウトでの対話に備えて論点を把握しておく。

9. TSUNAGU-PRO の活用法

○ TSUNAGU 起動①:ワーク A【収音】

小学校 6 年生が「これまで原爆について学んできたこと」「原爆の学びを通して感じたこと」について意見交換しています。

代表的な答えを 4~5 つ程度に類型化し, 見出しを付けてください。またその答えを箇条書きで例示してください。

箇条書きの最後には, それに言及した学校名を括弧書きで補足してください。

○ TSUNAGU 起動②:ワーク A【収音】

小学校 6 年生が「原爆について日本とは異なる考えをもつ人々に, 私たちの考えを伝えたい理由」について話合っています。

①多数意見, ②ユニークで個性的な意見, それぞれ数例取り上げて, 箇条書きにしてください。

箇条書きの最後には, それに言及した学校名を括弧書きで補足してください。